

清水篤先生 ご退任記念号に寄せて

児童教育学科長 戸 江 茂 博

このたび、児童教育学研究第36号を、清水篤先生のご退任記念号として上梓できますことを大変喜ばしくかつ誇らしく存じます。

本年3月をもちまして、児童教育学科の国語教育の重鎮、清水篤先生が退任されることになりました。清水先生のこれまでの辿ってこられた道を振り返り、築いてこられた国語教育の実践理論に敬意を表し、感謝することをもって巻頭言に替えさせていただきたいと思います。

清水先生は、地元三重県の皇學館大学文学部を卒業されて、すぐさま神戸市内の小学校教員として勤務されました。鶴越小学校を皮切りに、5つの小学校に勤務し、その後、神戸大学教育学部附属住吉小学校に文部教官教諭として勤務されました。附属住吉小学校時代に、多くのほんものの国語教師と出会われるなかで、国語教育の本質を看取され、よりよい国語の授業実践を積み重ねてこられました。平成5年より、神戸市の多井畑小学校、二葉小学校、南五葉小学校にて教頭になられ、平成12年からは長楽小学校、板宿小学校にて校長を歴任されます。管理職の立場にあっても、国語教育の研究と実践への思いは強く、兵庫県内各地の小学校に出向かれて、授業実践を中心とした国語科学習指導を継続追究してこられました。

そしていよいよ平成19年、これまでに培ってこられた国語教育の研究実績と豊かな教育実践を引っ提げて私たちの神戸親和女子大学においでくださったのです。その後、10年間にわたり、清水先生は、本学科の初等教育の中心の一つとしての国語教育の実践と研究に邁進され、小学校教育のすべての基礎となる国語教育の在り方を広げ深めることに努力されました。ゼミ指導においても、1年から4年までのゼミ担当教員を経験され、常に学生の文章力を鍛えることに重きを置かれ、学生の文章力指導を徹底して貫いてこられました。うちの学生は実習等においても記録がよく書けると評価を頂くことが多いですが、こういうところに清水先生の教育指導の影響が表れているのだと思います。

このように申し上げますと、清水先生はいかにも学生指導に厳しい先生のように思われるかもしれませんが、清水先生とお話をしていつも感じるのは、その懐の深さです。寛容の心と柔軟な対応姿勢です。そのような懐の深さをもって、いつも学生たちとともに歩んでいこうという気持ちを持っておられました。学生とともに歩む、これは私たち神戸親和女子大学の、児童教育学科の教育姿勢の一つではないでしょうか。清水先生から、学生とともに歩む教育、学生と対話的に進める教育をしっかりと学び、私たちの教育に生かしていきたいと考えます。

清水先生、長きにわたり本学科の国語教育の質的向上に貢献して下さったこと、そしてまた教育姿勢のあるべき姿を身をもって教示して下さったこと、誠にありがとうございました。清水先生に心より感謝申し上げますとともに、先生の今後のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

~~~~~

本児童教育学研究36号には、22本の研究論文が寄せられました。かつてないほどの本数です。改めて、私たち教員も、よりよい授業をするためには研究が欠かせないことをしっかりと認識し、ますます精進してまいりたいと念じます。